

鷺田清一賞
(高校部門)

東海大学付属望星高等学校(東京都) 3年

進藤 真瞳
しんどう まこと

「好きだよ」

当時思いを寄せていた人

「好きだよ」

ドキッとした。気になっている人からそんなことを言われたら、誰だってそうなるだろう。でも、その「好きだよ」は私に向けられたものじゃない。

「昨日テレビに出てたあの芸人良いよな」

「お笑い、好きなの？」

「好きだよ」

そんな話の流れでなんの他意もなく発せられた言葉だった。私のことじゃない。それでも、私はこう言う他になかった。

「私も好き」

気がつかれるはずはなかった。好きな人からの「好きだよ」と言うことば。そしてそれに答えた私。勝手に熱くなって、勝手に悲しくなつて。虚しい一人芝居でも、それが心にささって離れない。

受賞にあたって

もともと文章を書くのが好きで、詩や短い小説をよく書いていました。好きなのはあまりハッピーエンドではない話。詩人では中原中也が好きです。母がコンクールのことが載った新聞の切れ端を渡してくれて、何を書こうかと考えていたとき、少し前の友人とのエピソードを思い出しました。これからも書くことを続けていきたいと思っています。